

稲美町のまちづくりを考える！ 29 歳までの住民ワークショップ

報告書

令和8年8月

稲 美 町

1 開催目的

令和9年度の稲美町総合計画・総合戦略の改定に向けて、若い世代の稲美町の印象（好きなところ・気になるところ）や将来の居住・関わり方に関する意見を把握し、つなげることを目的に実施しました。

2 開催概要

全3回の開催とし、各回5～6グループに分かれて話し合いました。

開催日時：令和8年7月26日（日） 午前10時～午後11時30分

場 所：役場新館4階 コミュニティセンターホール

テ ー マ：将来も住みたい・関わりたい町に必要なこと

対 象：町内在住か在勤、在学の高校生年代から29歳までの人

申込方法：オンライン申請、電話

参 加 者：10人（うち高校生：8人、20歳代：2人）

ワークショップ案内チラシ▶

「こんな町だと住み続けたい」
「もっとこうなればいい」
皆様の思いやアイデアをお聞かせください！

稲美町のまちづくりを考える！
29歳までの住民ワークショップ

参加者募集

【日時】 7月26日(日) 午前10時～午後11時30分
【場所】 役場新館4階 コミュニティセンターホール
【テーマ】 町でも住みたい・関わりたい町に必要なこと
【対象】 町内在住か在勤、在学の高校生年代から29歳までの人
【定員】 20人
【申込方法】 オンライン申請、電話
【申込期限】 7月17日(金)

2026
7/26(日)

企画課 政策・デジタル推進係
☎079-462-9130

オンライン申請は
こちらから

3 実施内容

ワークショップ当日は、以下のタイムスケジュールに従い、進行しました。

テーブルはAとBの2グループに分かれ、高校生と20歳代の参加者が同じテーブルにつき、それぞれの意見や思いを話し合いました。

時間	項目	内容
10:00～ 10:10	開会・あいさつ	・開催趣旨の説明。 資料：町制施行70周年の要覧ダイジェスト版 ・グループワークの説明。
10:10～ 10:13	町の紹介	稲美町町制70周年記念動画の上映
10:13～ 10:20	自己紹介・リーダー決定	各テーブルで自己紹介ののちリーダーを決定。
10:20～ 10:25	個人ワーク①	「稲美町の好きなところ・魅力（赤付箋）」 「気になるところ（黄付箋）」を書き出し。
10:25～ 10:40	グループワーク①	模造紙に付箋を貼り出しながら、似た意見はグルーピングするなどして整理。
10:40～ 10:55	個人・グループワーク②	「将来も住みたい・戻ってきたい・関わりたいと思うために必要なこと（青付箋）」に書き出し、グループで整理する。
10:55～ 11:05	個人ワーク③	グループワーク①②を踏まえて、「将来も住みたい・戻ってきたい・関わりたいと思うために一番大切なこと」を各自がフリップに書き出し。（あわせて、該当するSDGsを検討してもらい、フリップに貼付。）
11:05～ 11:15	グループ発表	模造紙をホワイトボードに貼り出す。 各グループリーダーから、グループワーク（模造紙）の内容を発表してもらった後、各自個人ワーク③（フリップ）の内容を発表。
11:15～ 11:25	全体共有・まとめ	参加者の意見について事務局より確認・感想。
11:25～ 11:30	閉会	参加者各自フリップを持って記念撮影（事前に要確認）して終了。 （終了後、簡単なアンケートを配布・回収）

▼まずは、町のことをよく知るために町制70周年記念動画を視聴しました



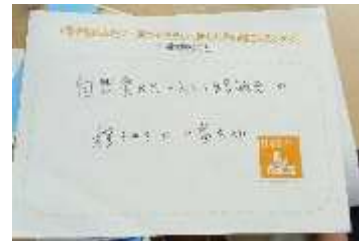
▲稲美町の今とこれからについて、みんなで話し合いました

4 グループワークの結果

グループA（高校生：4人、20歳代：1人 稲美町居住者：1人、加古川市居住者：4人）



▲グループワークで整理した模造紙(グループA)



▲フリップ「将来も住みたい・戻ってきたい・関わりたいと思うために一番大切なこと」

【模造紙内容】

自然	災害が少ない
	自然が豊かで公園などが身近にある点
	町をみわたして自然があふれている
	自然豊か
	池がキレイ
	中学校先生が自慢してた

食べ物	特産品を大切にしている
	食べ物がおいしい(空気もおいしい)
	野菜や果物をたくさんつくっている
	野菜がおいしい

交通	町内での交通手段が少ない
	交通手段が少ない
	電車が無い
	公共交通機関がぜんぜんない

遊び場	子供が遊ぶ場が少ない
	遊べるところが少ない
	稲美文化の森、子ども食堂がある
	施設はじゅうじつしてるけど、認知度利用者が少ないイメージ
	新しい家や施設ができて、木とか公園が減った
祭・イベント	加古川でできる、稲美に来てまですることがない
	伝統のある祭りが今も続いている。
	住民が楽しめるようなイベントがある
	地域のイベントが多い
	稲美のまつりなどあんまり認知度が低い
地域	町外に住んでいる届かない

地域	みんな稲美をすみやすいと言ってるかんきょうがある
	近所の人とのつながりが多い
	子どもを育てやすい

災害リスクが少ないため、安心して住める	発信
魅力がたくさんあるので、現代にあった方法で発信したらいいと思う SNS	
その地域に住んでいてもあまり知らない魅力を発見発信していくと良いと思う 高校生とか	
クリエイターの方々に取り上げてもらえるように発信(自分たちが)	
現代の特性であるSNSを活用・発信(イベント・良さなど)	気軽に参加
東はりま高校地域(稲美町)フィールドワーク	

他の地域の人でも行事やイベントに参加しやすいような環境が必要	気軽に参加
気軽にイベントに参加したり稲美町とふれあうかんきょうを目指す	

町外からでも行きたいと思うような遊び場の設置	発展
大きい公園、大きい施設	

自然いっぱいなのをいじしてほしい	維持
程よい自然豊かさであるためゆっくり住めるのではないかなと思う	
伝統イベントをこれからもつづけたり自慢の自然をこれからも守ったりなど、良さを町全体で伝承する	

稲美町の好きなところ・魅力

気になるところ

将来も住みたい・戻ってきたい・関わりたいと思うために必要なこと

【フリップ内容】

■フリップ内容	関連のSDGs
自然豊かで、笑顔がたくさんある今の稲美町を守っていくのが一番大切なことだと思います。 交通手段が少ないとか、少しふべんなところもあるけど、自然がいっぱいで、空気も食べ物もおいしいし、いいところもいっぱいあるので、今のいいところを守っていくのが一番大切だと思います。	15 陸の豊かさも守ろう
・豊かな自然・地域イベントの盛り上がり、特産品を大切に思う、などの稲美の良さや個性をこれからも伝承・発信する。 ・マイナスなイメージをなくし、プラス面をふやす。今、の稲美を知る稲美町民＋自分たちの世代が稲美と親しみ課題にとりくみ、プラスをふやす、発信なんでも気軽さがある場所を 作っていく	11 住み続けられるまちづくりを
今でもじゅうぶんに魅力があるからこそ、今ある安心・安全なまちを <u>保ち続ける</u> こと。 安心・安全ですべての人が対等に関わりあえること	10 人や国の不平等をなくそう
	15 陸の豊かさも守ろう
自然豊かさ・人との距離感の程よさが一番大切	11 住み続けられるまちづくりを
安心・安全で過ごせる町(がいとう防犯カメラがたくさん設置していること) 地域のじょう景を生かした行事やイベント 子どもから、お年寄りまで楽しめる公園や設備	11 住み続けられるまちづくりを

【ワークショップで得られたまちづくりの視点】

グループAでは、稲美町居住者が少ないテーブルだったこともあり、町の外からみた稲美町の魅力や課題、今後必要な視点に関する意見が多く得られました。

自然や食べ物については、参加者が共通して稲美町の魅力として捉えている一方、交通環境については、若い世代にとっても気になる点であることがわかりました。また、遊び場や地域の祭・イベントについては、充実しているという意見がある一方で、それらが町外にまで知られていないということが課題として挙げられました。

町外からでも人を呼べる遊び場や施設を求める声もある一方、稲美町には今でもじゅうぶんに魅力があり、それを守り、維持していくことが重要と考える人が多く、そのことは参加者それぞれが「一番大切にしたいこと（フリップ内容）」にも表れています。稲美町の好きなところを守り、維持していくために、稲美町の魅力を発見すること、魅力を発信する力を高めることや、他の地域の人も気軽に参加できる環境をつくることなどについて、具体的な意見も挙げられました。

グループB（高校生：4人、20歳代：1人 稲美町居住者：3人、加古川市居住者：2人）



▲グループワークで整理した模造紙(グループB)



▲フリップ「将来も住みたい・戻ってきたい・関わりたいと思うために一番大切なこと」

【模造紙内容】

自然環境	きれいな田園風景
	麦畑がきれい 畑全部が同じ色に染った時！
	自然が豊か！生き物が多い
	自然豊か
	桜

食べ物	安心して水道水が飲める
	豊かな農産物(米、麦、野菜…)
	給食がおいしい
	稲美町の給食
	食べものが美味しいところ

生活環境	道路が狭い 歩道が少ない	道
	道路がでこぼこしている	
	街灯が少ない	
	通学路がせまい	
	作物とかをアナログな方法で売っているところ	買い物
	お店が少ない スーパーマーケットなど飲食店	
		施設
	思い切りボール遊びできる公園が少ない	
	遊ぶ場所が少ない	
	屋内で涼めるところが少ない	

地域	地域の人との関わりが多い
	地域の人との関わる人が多いところ
	交通指導員さん
	お祭り
	地域のつながり 地域イベント
	地域人口の格差

防犯カメラの設置	安心できるまち
歩道ができたら…	
街灯の設置	
通学路や交通の少ないところに反射板の設置	

バイパスの整備	便利
電車・バス 車以外の移動の充実・整備	
買い物できる場所を増やす	

今後も変わらず 地域のつながり 地域で見守る体制があること	人との関わり
地域の人との関わりを大切にする	
いろんなことを応援してくれる人が多い	
地域の人との関わりが多いイベントを継続	
今ある地域イベントを続けていく	
稲美全体・大きな祭り 花火大会など	
人が少ない地域にも移住できたら	

自然環境を維持	自然環境の維持
きれいな水などを守るための環境にやさしい行動	
田畑の維持	
稲美町の農業をもっと盛り上げる	

-  稲美町の好きなところ・魅力
-  気になるところ
-  将来も住みたい・戻ってきたい
・関わりたいと思うために必要なこと

【フリップ内容】

フリップ内容	関連のSDGs
・豊かな自然環境を活かしたイベントを開催しつづけ(SDGs→15.8.16) ・安心できる町であるために、犯罪や事故の少ない対策。(SDGs→11)	11 住み続けられるまちづくりを
	15 陸の豊かさも守ろう
農産物や農産物を使った稲美町の食を住民が大切にして、他地域にも魅力を伝えること	2 飢餓をゼロに
	15 陸の豊かさも守ろう
地域の人と共に のびのびと子育て・生活できる環境づくり	11 住み続けられるまちづくりを
水道水を安心して飲めたり、公園の遊具で楽しく遊べるなど 子どもがのびのびと育っていける町を守っていくことが大切だと思います。	6 安全な水とトイレを世界中に
地域の人との関わり。 世代間の交流ができたり、地域の人＝第2の家族みたいで安心感がある。 帰ってきたいと思う。 自分自身、積極的にイベントに参加したりする。 登下校の時の、”いってらっしゃい”や”おかえり”	11 住み続けられるまちづくりを

【ワークショップで得られたまちづくりの視点】

グループBでもグループAと共通して、自然環境や食べ物が稲美町の魅力であるとしてたくさんの意見が挙げられ、今あるもの、新しいものも含めて、もっと農業を盛り上げていくことが、今後必要な視点として挙げられました。

生活環境については、道路環境や買い物、施設などについて課題が挙げられる一方で、お店の数は少ないものの、そのアナログな売り方に「あたたかさを感じる」という意見もみられました。また、地域の人との関わりが多いことや、地域の祭りやイベントを通じて人とのつながりがあることが、若い世代の安心や、今後地域に関わり続けるための意欲にも結びついているということもうかがえます。

防犯面等も含めた安心できるまちづくりや、生活利便性の向上も必要である一方で、今ある人とのつながりを、「見守られている」「応援してもらっている」と感じる若い世代の意見から、地域の人とのつながりを大切にしながら、地域の魅力として維持し、伝えることも重要であることがわかりました。

5 総括

本ワークショップでは、若い世代が感じている稲美町の魅力や気になるところ、将来も住みたい・戻ってきたい・関わりたいと思える町に必要なことについて、率直な意見を出し合いました。

話し合いを通じて、豊かな自然や田園風景、おいしい農産物や食、地域の人とのつながりなどが、稲美町の大切な魅力として捉えられていることがわかりました。一方で、交通手段や道路・歩道、買い物、遊び場など、日々の暮らしをより便利で安心なものにしてほしいという声も挙げられました。また、今ある町の施設やお祭り、イベント、さまざまな魅力を、SNSなどを活用して広く発信することも大切だという意見も多くみられました。

若い世代が考えた「一番大切にしたいこと」からは、生活利便性を向上したり、新しい魅力を増やすだけでなく、今ある自然や食、人とのつながり、安心して暮らせる環境を守り、活かしていきたいという思いがうかがえます。若い世代が自らイベントに参加したり、町の魅力を発信したりするなど、まちづくりに関わろうとする前向きな意見も得られました。今後は、こうした声を計画づくりに活かし、若い世代がこれからも稲美町とつながり続けたいと思えるまちづくりを進めていくことが大切です。

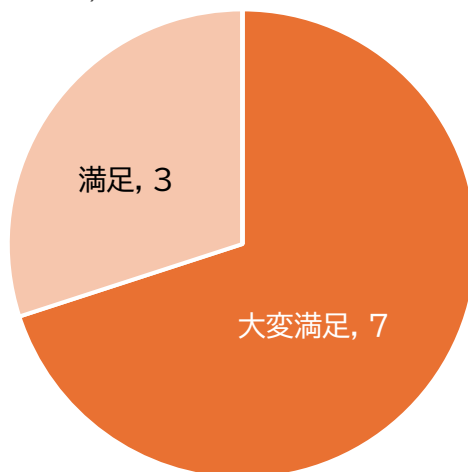


▲閉会。参加者が稲美町の未来のために「一番大切にしたいこと」を手記に記念撮影しました

6 おわりに（稲美町住民ワークショップ アンケートのまとめ）

Q1 本日のワークショップの全体的な満足度を教えてください。

どちらともいえない, 0 不満, 0 大変不満, 0



Q2 Q1の理由があれば教えてください。(良かった点や悪かった点など)

■大変満足(7件)

グループのみんなで楽しく話し合えた。稲美町について深く考えることができた
高校の同級生だけでなく、地域に住んでいる自分とは違う境遇の人と話せて、すごく良い経験になったから。 おかしがおいである点など、初めての場所、初めて出会う人達なのに、少しリラックスして話し合える環境がすごくいいと思ったから。
自分が今、住んでいる稲美町に不満をもったことはあまりなかったけど、他の地域に住んでいる人たちの意見を取り入れて視点を変えることで実際に課題や改善点が見つかり、充実した時間になったからです。
稲美をさらに知れるきっかけとなり、良い点悪い点も把握でき、今後の探究活動に最大限いかせられる貴重な時間となったからです。稲美のこと、稲美町民の意見、町外の意見を近くで共有し合え、「こういう課題・見方があるんだ」と新しい発見もあり楽しかったからです。
高校生の稲美町に対する意見を聞くことができた。
本日のワークショップを通して他の人の意見をききながらいなみの現状を知ることができ、非常に貴重な体験ができたと感じているから。
稲美町について深く考えることや、たくさんの意見が交換したり、聞くことができてよかったです。

■満足(3件)

スムーズにワークショップがすすんでいったし、自分では思いつかなかったこともたくさんあったので良かったです。 ただ、知ってる人が多かったのもっと色々な人と話してみたかったなと思い「満足」にしました。
みんなでそれぞれの意見を出し、その意見について話し合うことができ、とても良かったです。この住民ワークショップで出た意見を少しでも稲美町のこれからは生かすことができたかな、と思います。
・自分の住んでいる場所を見つめ直す良いきっかけとなった。 ・学生以外の参加者がもう少しいれば良かった。

Q3 ワークショップの感想や今後のまちづくりに期待することを自由に記載ください。

みんな似た様な意見で考えていることが一緒と言うことなので、今日でた課題(防犯)などを改善されたらいいなと思いました。
お店ができて友達と稲美町に居られる時間が長くなることを期待する。
今の安心して住めるこの町を守ってほしいと思ったのと同時に自分たちの力でも守るために少しでもできることがあるなと感じました。
若い世代がへってる中だけど、稲美のよさをもっと広めたいし、子供たちが安心してすめる楽しい町をめざして探究をがんばっていきます！ありがとうございました。
今日のワークショップの意見をいかしたまちづくりができれば良いと思う。
学校外でワークショップをするのは初めてだったので、すごくいいいけいけんになりました。今日したことが、今後の稲美町にどうえいきょうするかわからないけど、今の良さを守りながらさらにいいまちにしていってほしいなと思います。
このような機会をこれからもたくさんしてほしいなと思います。
自分の知らないことを他の人とともに知ることができ、非常に貴重な体験ができたと思います。今後のいなみ町に自分が少しですが貢献することができた気がします。今回の経験を高校で行っている地域探究の学習に活かしていきたいと思います。
ワークショップの参加者に、今日の意見をこんな形で反映したり、活用したりしたというフィードバック的なものがあれば、学生は嬉しいのではないかと思います。
これからも、地域のイベントに参加していけたらと思いました。もう一度、ワークショップを開いてほしいと感じました。